

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。

- 1 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送れる学校
- 2 才能を磨く学校として・・・普通科専門コース制の学校として、各コースの特色を生かし、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
- 3 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

2 中期的目標

1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取り組み

(1) 学力の向上（基礎学力の定着、発展的学力の育成）

- ア 家庭での学習習慣の定着を一層図るため、計画的にバランスよく宿題を課す。常に学習状況等の振り返りを行い、家庭学習の重要性を理解させる。
 - イ 確かな学力をつけるため、生徒が授業に取り組む集中度を高め、学ぶ意欲の向上に努める。
 - ウ 生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させるために、一斉講義形式の授業から、双方向性に富む授業をめざす。
- ※生徒の授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定率（平成 28 年度 80%）を毎年 1%引き上げ平成 31 年度には 83%にする。

(2) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成。

- ア 教科授業に加えて総合的な学習の時間、学校行事を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。全教科で国際社会・情報社会に対応する人材を育成する。
 - イ 授業のまとめや課題にチームで取り組ませ、調べ・発表（発信）する場を与え、他とコミュニケーションする力、プレゼンテーション力を育成する。
 - ウ 教科のみならず、コースや学年単位で取り組めるプレゼンテーションの機会を多くつくる。
- ※普総選アンケートのプレゼンテーション能力に関する肯定率（平成 28 年度 61%）を毎年 1%引き上げ平成 31 年度には 64%にする。
※普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率が平成 28 年度、前年度の 72%から 66%に下降。目標値を 69%（平成 31 年度）に下方修正する。

(3) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科で課題の発見と解決に向けて主体的で対話的で深い学びを実践できるよう授業改善を行う。
 - イ 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かせるよう努める。
 - ウ 調べ学習や探求など課題解決の力を付ける授業を増やし、思考力、判断力、表現力を育成する。
 - エ ICT 機器や視聴覚機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。
- ※生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率が平成 28 年度、前年度の 90%から 88%に下降。目標値を 91%（平成 31 年度）に下方修正する。
※平成 31 年までに、学校教育自己診断「宿題や課題がよく出される」が平成 28 年度、前年度 70%から 66%に下降。目標値を 70%（平成 31 年度）に、同様に「予習や復習を欠かせない」を（平成 28 年度、前年度 34%→28%下降）35%（平成 31 年度）に下方修正する。

2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する

(1) 進学実績の向上

- ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようにする。
 - イ 土曜講習だけでなく、「進学特別ルーム」及び「アドバンス学習室」を自習室・大講義室として開放する。
 - ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。
 - エ 「アドバンス学習ルーム」（平成 27 年度学校経営推進費事業により）、を活用し講義・講習等の学習環境の充実を図る。
- ※難関 8 私大（関・関・同・立・京産・近・甲・龍）・中堅私大（大経・関外・京外・神学院・阪南・摂南・追手門・大産・京女・仏教）の延べ合格者数（平成 28 年度生 248 名 3/2 現在）を 30 年度に 250 名にする。

(2) キャリアデザインの推進

- ア 自分の人生を将来から見つめ、自分の生き方や進路について考えさせる「キャリアデザイン」を総合的な学習の時間と LHR 等を活用して推進する。
 - イ 入学から卒業までの段階を踏んだ 3 年間のプログラムを編成し、進路先の更にある職業意識を育む。
- ※学校教育自己診断における進路情報に関する肯定率（平成 28 年度 75%）を 31 年度に 78%にする。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 遅刻指導を徹底し、生活リズムの確立を支援する。
 - イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。
 - ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。
- ※平均総数（平成 28 年度 2200 回）を平成 31 年度に 2000 回にする。

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を充実させる。
 - イ 豊島高校展（作品展）を地域で開催し、生徒の学習の成果やクラブの発表の機会とする。
 - ウ 日常の清掃とは別に部活動を中心とした清掃活動を継続実施し、校内の特定地域を集中清掃や校外の地域清掃を行う。
 - エ 生徒会活動や学校行事の活性化をはかり、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
 - オ 国際交流を深め、海外の学校との連携を強化し、相互訪問や英語による課題研究及び発表会等を行なう。
 - カ 3 年間を見通した人権教育の指導計画を確立して、豊かな心を育む教育を推進する。
 - キ 普通科専門コース制設置に伴い、各コースの特徴となる行事を取り入れながら、専門的な教育内容を実践し、それを生かした進路実現を図る。
- ※学校教育自己診断の学校行事における肯定率が平成 28 年度、前年度 59%から 53%に下降。3 年後の目標値を 60%に下方修正する。
※全学年の部活動加入率が平成 28 年度、前年度 73%から 70%に下降。目標値を（平成 31 年度）73%に下方修正する。

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり。

- (1) 「部会」を原則毎週実施し、分掌内での連携・調整を強化し、迅速な課題解決に向け、校内組織を固めた上で分掌間の連携を図る。
- (2) 課題の解決のため、可能な限り分担を既存の経営会議・運営委員会等既存組織の分担にして行く。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取り組み	<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア 家庭での学習習慣の定着</p> <p>イ 授業の集中度及び学ぶ意欲の向上</p> <p>ウ 双方向性に富む授業の構築</p> <p>(2) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>エ 調べ学習にチームで取り組み、発表（発信）する場を与える。教科、コース、学年単位でプレゼンテーションの機会を多くつくる。</p> <p>(3) わかる授業、課題解決型の授業の創造</p> <p>オ 授業改善のため、相互授業参観や研修を積極的に行い、その成果を共有する。</p> <p>カ ICT 機器や視聴覚機器を効果的に活用する。体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。</p>	<p>ア 家庭学習に取り組むよう、教科の宿題のみならず、授業の予習・復習を習慣化させ学力向上につなげる。</p> <p>イ 50分の授業の中で、授業開始時にこの時間は「何を学ぶか」等目標の説明を、終わりには「まとめ」を必ず行い、学習内容を俯瞰できるようにする。</p> <p>ウ 各教科で主体的で対話的で深い学びを実践する。</p> <p>エ 教科、学年、総合的な学習の時間等を活用し、プレゼンテーションをする機会を多く設ける。</p> <p>オ 相互授業参観を教科の範囲を超えて一層組織的に行う。</p> <p>カ 教科を限らず、ICT 機器を利用する授業を充実させる。できる科目から従来の紙ベースの教材提示に加え Moodle 等 e-Learning を活用する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「宿題や課題が良く出される」を（平成 28 年度 66%）を 69%にする。</p> <p>・生活実態調査での家庭学習時間を今年度より 10分以上伸ばす。（平成 28 年度 3 学年平日自宅内平均学習時間 23 分）</p> <p>イ 授業アンケートの「わかりやすい授業」の肯定率（平成 28 年度 88%）を毎年 1%引き上げ平成 29 年度には 89%にする。</p> <p>ウ 同上</p> <p>エ・学校教育自己診断の「調べ学習や生徒の発表による内容も多い」を（平成 28 年度 49%）を 54%にする。</p> <p>・普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率（平成 28 年度 66%）を 70%にする。プレゼンテーションに関する肯定率（平成 28 年 61%）を 63%にする。</p> <p>1・2 年生に外部英語力評価試験を全員受験し、目標スコアを達成する。</p> <p>オ イ、ウと同じ</p> <p>カ・Moodle を活用する教科・科目・集団を増やす。平成 28 年度実績である国語（現代文・古典単語・動画）、英語（文法・リスニング・単語・動画）、数学（動画基礎・発展）を入試問題を中心に平成 29 年度 5 教科に拡大し、受験に対応できるよう充実を図る。</p>	

<p>2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。</p>	<p>(1) 進学実績の向上 ア 難関私立大、中堅私立大への合格ができるよう学力をつける。 イ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。</p>	<p>ア・勉強合宿を実施し、参加について保護者にも発信対象として早い時期から知らせる。 ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏季に2回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。 ・進学特別ルーム、アドバンス学習室を土曜講習、講習・講演、自習に活用する。 イ・キャリアデザイン (CD) の時間で、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界で活躍する人の講演を実施し、職業意識の醸成を図る。保護者にも情報提供を綿密に行う。</p>	<p>ア・昨年度参加者 65 人を施設の許容人数限界まで増やす。 ・難関 8 私大・中堅私大の延べ合格者数 (平成 28 年度生 204 名) を 29 年度に 250 名にする。 ・難関大学 8 校をはじめ、大学見学バスツアーを 2 回実施し、生徒の進学意識を高める。事後のアンケートで生徒の意識変化を「見える化」する。 イ・学校教育自己診断での「将来の生き方について考える機会がある」の肯定感を (平成 28 年度 75%) を 78%にする。</p>	
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行 ア 遅刻指導の徹底 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の帰属意識、愛校心を高める取組み イ クラブ活動充実のための取組み ウ 生徒会活動や学校行事活性化に向けての取組み エ 国際交流の継続。海外の学校との連携を強化。 オ 人権を尊重する取組み</p>	<p>ア・遅刻の多い生徒については、期限を決めて回数をカウントし、早朝登校や個別指導を徹底して改善をはかる。 イ・新 1 年生を対象とするクラブオリエンテーションの継続。全員に部活動の魅力を実感させ、入部率の向上を図る。 ウ・豊中市、箕面市等地域社会と連携して地域行事や小中学生のイベントを始め様々な行事にクラブ生徒や生徒会を派遣し、地域に貢献する豊島高校をアピールする。 ・生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。 エ・韓国慶南女子高校、南山高校、Modbury High School との交流を継続し、国際感覚の醸成につとめる。 オ・生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめのない学校をめざす。</p>	<p>ア・遅刻総数を (平成 27 年度 2200 回) を 2000 回にする。 イ・全学年の部活動加入率 (平成 28 年度 70%) を 73%にする。 ウ・部活動の地域事業への参加回数 (平成 28 年度は部全体で約 30 回) を継続する。 ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率 (平成 28 年度 53%) を 56%にする。 エ・韓国慶南女子高校、南山高校との交流及びオーストラリア Modbury High School での海外短期語学研修を継続する。 オ・安全で安心な学校づくりの生徒の申し出数を 1 件以内とする。</p>	
<p>4 学校全体の課題を共有し、解決に向けての組織づくり</p>	<p>ア 組織体制・連携 (1) 分掌内・外での連携・調整を強化。課題解決を図る (2) 課題解決のための発案を既存の経営会議、運営委員会が担当し、担当部署が実践的取り組みを行う。 イ 新しく始まるコース制への移行を成功させ、定着・発展させる取組みを行う。</p>	<p>ア・定期的な「部会」の開催を通し、分掌内での連携・調整し課題解決のスピード上げる。 ・改編に伴う新たな課題を「コース制を考える会」及び経営会議において検討し、「前さばき」を行い、整理する。 イ・各コースの魅力となる取組みを検討し、導入する。</p>	<p>ア・部会の開催回数をそれぞれ分掌の目標値 (自己申告票に記載する) として設定し、PDCA を回していく。 イ・大阪成蹊大学との高大連携の継続 (大阪成蹊大学と本校は高大連携の締結をしている)。具体的には、昨年度の反省を踏まえ、講義形式ではなく実践的な内容 (例えばスポーツコースならテーピング実習、インターナショナルコースなら発音実習など) を大阪成蹊と協議中。また、大学生によるプレゼンテーションを見せるのも検討に入れる。</p>	